

長崎方言における二字漢語のアクセント型

松浦, 年男
北星学園大学

<https://doi.org/10.15017/16404>

出版情報 : 九州大学言語学論集. 30, pp.29-58, 2009-12. 九州大学大学院人文科学研究院言語学研究室
バージョン :
権利関係 :

長崎方言における二字漢語のアクセント型

松浦年男

(北星学園大学)

yearman@hokusei.ac.jp

キーワード：長崎方言，漢語，アクセント，モーラ数

1. 本稿の目的

本稿では、長崎方言の二字漢語に着目し、そのアクセント型がどのようにして決まるかを検討し、東京方言や京都方言のアクセント型と同様、後部要素のモーラ数によって決まることを示す。

長崎方言のアクセントの特徴としては二型アクセント体系ということが挙げられる。長崎方言ではモーラ数に関わらず2つの型の対立しかない。このうち第2モーラ（2モーラ語の場合は第1モーラ）が高く実現する型はA型、全体が平板で実現する型はB型と呼ばれている（平山1951，坂口2001）。(1)に例を示す。高く発音される部分を[]で囲む¹。

- (1) A型：[カ]ワ（川），ア[ラ]シ（嵐），ビ[ニ]ール，プ[レ]ゼント
B型：サル（猿），タバコ，ウグイス，ボーリング

長崎方言のアクセント型について、二字漢語に焦点を絞った研究はこれまでのところ聞かない。ただし、関連するものとして坂口(1990)があるので、これを紹介する。

¹ ピッチパターンについて、A型の第1モーラが低いか高いかは世代によって揺れがあることが坂口(2001)で言及されている。また、B型について、平山(1951)や坂口(2001)などでは、鹿児島方言のB型と同様、最終モーラが高くなると記述されている。しかし、筆者の聴覚印象、並びにF0の視認において、少なくとも今回の調査における話者に関しては、東京方言の平板型のように、1モーラ目から2モーラ目にかけて上昇し、そのあとは大きなF0の変化は見られないことが確認された。ただし、具体的な音声形は本稿の議論には関係しないためこれ以上の議論は行わない。

坂口(1990)は長崎方言の漢語のアクセント型について、東京方言（坂口1990では共通語）のアクセント型と比較を行っている。ここでは、初頭2モーラにアクセントがあればA型、それ以外ならばB型という対応関係が見られる、もしくは複合語の規則（平山の法則(3)）に従っていると記述されている。

(2) 坂口(1990)における長崎方言の漢語アクセントの一般化

- a. 東京方言において初頭2モーラにアクセントがあればA型、それ以外ならばB型になる。
- b. 前部要素の型と同じアクセント型になる。

しかし、坂口(1990)の一般化では、(2a)と(2b)がそれぞれどのような分布の関係になるのかが明示的に示されていない。また、坂口(1990)は二字漢語に限らず、一字の漢語（例：文（ぶん）、香（こう））や三字以上の複合語（例：自動車、文化人）もまとめて分析している。東京方言（共通語）における漢語のアクセント型の規則性は全体の字数、特に一字か二字か三字以上かによって大きく変わることが秋永(1981)等で指摘されている。このことから、漢語のアクセント型を明らかにするときには、全体の字数ごとに結果を示す必要があると考えた²。特に、二字漢語は複数の形態素（漢字）から成るという点で複合語的であるが、単独で使用できる単位としては最小になるものが多いという点で単純語的であり、特に注意して記述すべきである。そこで、本稿では二字漢語に焦点を当てた研究を行った。

以下、2節では、同じ二型アクセント体系を有する鹿児島方言に加え、東京方言、京都方言の二字漢語のアクセントを取り上げ、二字漢語のアクセント型に影響する要因を3つ示す。次に3、4節では、長崎方言の母語話者に対する聞き取り調査の結果を報告し、どれが二字漢語のアクセント型に影響しているかを論じる。最後に5節では結論を述べる。

2. 仮説

2.1. 前部要素の影響

二型アクセントに関する研究では、複合語において前部要素のアクセント

² なお、筆者も長崎方言の一字の漢語は殆どがA型で発音されることを確認している。

ト型が保持されるという規則，いわゆる「平山の法則」(3)が知られている（平山 1951）。

(3) 平山の法則

複合語において，前部要素のアクセント型が複合語全体で保持される。

長崎方言の複合語も原則的にこの法則に従っており，前部要素が A 型ならば複合語全体でも A 型で ((4)参照)，前部要素が B 型ならば複合語全体でも B 型で実現する ((5)参照) (坂口 2001)³。

- (4) a. [イ]ワ → イ[ワ]ヤマ (岩山)
b. [ブ]タ → ブ[タ]ゴヤ (豚小屋)
- (5) a. ウラ → ウラヤマ (裏山)
b. ヤマ → ヤマゴヤ (山小屋)

また，長崎方言と同じく九州地方で二型アクセント体系を有する鹿児島方言では，平山の法則(3)が複合語だけではなく，二字漢語においても働いているということが指摘されている（木部 1990，上野 1992）。すなわち，(6)や(7)のように，前部要素に同じ漢語形態素を共有する二字漢語では，アクセント型が同じになるのである。

(6) 鹿児島方言の A 型（次末音節が高い）

ズ（図）：[ズ]アン（図案），[ズ]ガ（図画），[ズ]コー（図工）
テン（天）：[テン]キ（天気），[テン]サイ（天才），テン[ゴ]ク（天国）

(7) 鹿児島方言の B 型（末尾音節が高い）

イ（医）：イガ[ク]（医学），イ[シヤ]（医者），イ[リョー]（医療）
シン（新）：シン[キ]（新規），シン[ジン]（新人），シンサ[ク]（新

³ ただし，長崎方言における規則性は前部要素が短いときにのみ見られるものである。長崎方言では，前部要素が 3 モーラ以上になるとこの法則が働かず，複合語全体が B 型で実現する。詳細な議論は松浦(2008)を参照のこと。

- (i) a. イ[ン]ド→インドジン（インド人）
b. チュ[ー]リップ→チューリップバタケ（チューリップ畑）

作)

この規則は前部要素が単独で用いられるかどうかとは関係なく成り立つ(上野 1992)。なお、小川(2005)は平山(1960)に掲載されている二字漢語を数え上げ、そのうち 96%の二字漢語が平山の法則に従っているという結果を報告している。以上のことから、上野(1992)も小川(2005)も漢語形態素はアクセント型に関する指定を持っており、複合語と同様に平山の法則によって二字漢語全体のアクセント型が決まると考えている。長崎方言も二型アクセント体系を持ち、複合語アクセントも平山の法則に従っていることから、二字漢語のアクセント型も前部要素の形態素に指定されているアクセント型によって決まるという仮説(8)が考えられる。

(8) 仮説 1：前部要素アクセント型仮説

- a. 前部要素が A 型の指定を持つ漢語形態素ならば二字漢語は A 型になる。
- b. 前部要素が B 型の指定を持つ漢語形態素ならば二字漢語は B 型になる。

ただし、前部要素の音節構造も漢語のアクセント型に影響する。小川(2005)は、軽音節のみの漢語形態素が前部要素にくる場合は A 型が多くなり、重音節を含む漢語形態素が前部要素にくる場合は B 型が多くなることを示している。また、窪菌(2007)は同様の傾向が鹿児島方言のアルファベット頭文字語にも見られることを示している。このことから、前部要素の音節構造がアクセント型を決めるという仮説(9)が考えられる。

(9) 仮説 2：前部要素音節構造仮説

- a. 前部要素が軽音節のみならば二字漢語は A 型になる。
- b. 前部要素が重音節を含むならば二字漢語は B 型になる。

2.2. 後部要素の影響

仮説 1, 2 は前部要素の特徴が二字漢語に影響を及ぼすというものであった。しかし、東京方言や京都方言の二字漢語におけるアクセントの特徴は後部要素が影響を及ぼす。東京方言における二字漢語のアクセント型については秋永(1981)、最上ほか(1999)、Ogawa (2004)による研究がある。最上ほか(1999)によれば、3 モーラ語についてみた場合、後部要素が 1 モーラの

場合 66.7%が頭高型になる一方で、後部要素が 2 モーラの場合 73.4%が平板型になるという。このように、東京方言における二字漢語のアクセント型に最も強く影響するのは後部要素のモーラ数である。また、小川(2006)が京都方言の 3 モーラ二字漢語について、後部要素が 1 モーラの場合 61.8%が頭高型になり、2 モーラの場合 79.7%が平板型になると報告しているように、東京方言と同じくモーラ数による影響が京都方言についても見られる。

以上のように、東京方言と京都方言は後部要素の長さが二字漢語における下降の有無に強く影響している。もし、後部要素が 1 モーラならば下降を伴う型にし、2 モーラならば下降を伴わない型にするという規則性が方言を問わず広く見られるならば、長崎方言の二字漢語のアクセント型について(10)の仮説も検討する価値がでてくる。

(10) 仮説 3：後部要素モーラ数仮説

- a. 後部要素が 1 モーラならば二字漢語のアクセントは A 型になる。
- b. 後部要素が 2 モーラならば二字漢語のアクセントは B 型になる。

以上、長崎方言の二字漢語のアクセント型がどのようにして決定するかについて、「前部要素の形態素に指定されているアクセント型によって決まる」、「前部要素の音節構造によって決まる」、「後部要素のモーラ数によって決まる」という 3 つの仮説が考えられることを述べた。3, 4 節ではこれらの仮説のうちどれが妥当であるかを検討するために行った聞き取り調査の結果を報告する。

3. 調査 1：実在語

3.1. 調査概要

3.1.1. 語彙

以下の手順で調査語彙を用意した。前部要素の形態素に指定されているアクセント型により二字漢語のアクセント型が決まるという仮説 1 を検証するためには、前部要素に同じ漢語形態素を共有する二字漢語を用意する必要がある。2 節でも述べたように、1 つの漢語形態素には最大 2 モーラまでしか含まれない。和語も単純語では 4 モーラ以下の語が非常に多く、短い語が多いという点で共通している。そして、坂口(2001)によれば、アクセント類別語彙(金田一 1974)におけるアクセントの分布は鹿児島方言と

長崎方言で対応していることから、漢語形態素のアクセント型も両方言で対応していると仮定する。この仮定に基づき、まず前部要素として平山(1960)所収の二字漢語をもとに漢語形態素を27個選定した。これら27個の形態素のうち、鹿児島方言において二字漢語の前部要素に来たときに二字漢語がA型で現れるものをA型形態素、B型で現れるものをB型形態素と呼ぶ。前部要素の全例を(11)に示す。

(11) A型形態素

運(ウン)、加(カ)、記(キ)、共(キョウ)、市(シ)、自(ジ)、職(ショク)、石(セキ)、絶(ゼツ)、参(サン)、大(タイ)、中(チュウ)、天(テン)、馬(バ)、本(ホン)

B型形態素

愛(アイ)、王(オウ)、開(カイ)、軍(グン)、高(コウ)、作(サク)、実(ジツ)、出(シュツ)、日(ニチ)、発(ハツ)、別(ベツ)、有(ユウ)

(11)にあげた漢語形態素には加(カ)のように1モーラ1音節のもの、職(ショク)のように2モーラ2音節のもの、高(コウ)のように2モーラ1音節のものが全て含まれているので、これらの違いを見ることで、前部要素の音節構造が二字漢語のアクセント型を決めるという仮説2を検証することができる。そして、(11)の前部要素に対して、二字漢語のアクセント型は後部要素の長さにより決定されるという仮説3を検証できるように、1モーラの漢語、2モーラの漢語を後部要素につけた二字漢語を作成した。以上により、計383語が調査語彙として作成された⁴。

3.1.2. 話者と調査方法

話者は長崎市内に在住の53歳から78歳までの男女6名(男性3名、女性3名)である。一つの二字漢語につき3名の話者に読んでもらい、2名以上が発音した型をその二字漢語の型とした。なお、この6名の話者に対しては、二字漢語の調査に先立って100語ほどの基本的と思われる語彙について予備調査を行い、話者間でアクセントの体系に大きな差がないことを確認している。

⁴ 査読者より、3つの仮説の各条件を比較するにあたり、調査語彙に偏りが見られるという指摘があった。これについては今後の課題としたい。

3.2. 予測

2節で挙げた3つの仮説に基づく予測を以下に述べる。

仮説1が正しいならば、二字漢語のアクセント型は前部要素の形態素のアクセント型によって決まるはずである。したがって、同じ前部要素を共有する二字漢語ならば、前部要素の音節構造や後部要素のモーラ数に関わらず一定のアクセント型で実現することが予測される。

仮説2が正しいならば、二字漢語のアクセント型は前部要素の音節構造によって決まるはずである。したがって、前部要素が同じ音節構造の二字漢語ならば、前部要素の形態素のアクセント型や後部要素のモーラ数に関わらず一定のアクセント型で実現することが予測される。

仮説3が正しいならば、二字漢語のアクセント型は後部要素のモーラ数によって決まるはずである。したがって、後部要素が同じモーラ数の二字漢語ならば、前部要素の形態素のアクセント型や音節構造に関わらず一定のアクセント型で実現することが予測される。

3.3. 結果と仮説の検証

3.3.1. 仮説1について

前部要素の形態素別に集計した結果を(12)に示す。なお、仮説から出現が予測される型には網をかけて示す。

(12) 前部要素の形態素別の集計結果

前部要素 \ 結果	A 型	B 型	合計
A 型形態素	56 (29.0%)	137 (71.0%)	193
B 型形態素	31 (16.3%)	159 (83.7%)	190
合計	87	296	383

前部要素がA型形態素の場合には、193語中56語(29.0%)がA型で実現したのに対し、137語(71.0%)がB型で実現した。また、前部要素がB型形態素の場合には、190語中31語(16.3%)がA型で実現したのに対し、159語(83.7%)がB型で実現した。このように、前部要素がB型形態素の場合には仮説どおりの結果になっているが、前部要素がA型形態素の場合には仮説に反してB型が多くなっている。以上のことから仮説1は妥当でないと考えられる。

3.3.2. 仮説 2 について

前部要素の音節構造別に集計した結果を(13)に示す。

(13) 前部要素の音節構造別の集計結果

前部要素 \ 結果	A 型	B 型	合計
1 モーラ 1 音節	13 (22.0%)	46 (78.0%)	59
2 モーラ 2 音節	19 (28.8%)	47 (71.2%)	66
2 モーラ 1 音節	55 (21.3%)	203 (78.7%)	258
合計	87	296	384

前部要素が 1 モーラ 1 音節の場合には、59 語中 13 語 (22.0%) が A 型で実現したのに対し、46 語 (78.0%) が B 型で実現した。また、前部要素が 2 モーラ 2 音節の場合には、66 語中 19 語 (28.8%) が A 型で実現したのに対し、47 語 (71.2%) が B 型で実現した。そして、前部要素が 2 モーラ 1 音節の場合には 258 語中 55 語 (21.3%) が A 型で実現したのに対し、203 語 (78.7%) が B 型で実現した。このように、前部要素が 2 モーラ 1 音節の場合には仮説どおりの結果になっているが、前部要素が 1 モーラ 1 音節、2 モーラ 2 音節の場合には仮説に反して B 型が多くなっている。以上のことから仮説 2 は妥当でないと考えられる。

3.3.3. 仮説 3 について

後部要素の音節構造別に集計した結果を(14)に示す。

(14) 後部要素の音節構造別の集計結果

後部要素 \ 結果	A 型	B 型	合計
1 モーラ 1 音節	45 (53.6%)	39 (46.4%)	84
2 モーラ 2 音節	12 (14.6%)	70 (85.4%)	82
2 モーラ 1 音節	30 (13.8%)	187 (86.2%)	217
合計	87	296	384

後部要素が 1 モーラ 1 音節の場合には、84 語中 45 語 (53.6%) が A 型で実現したのに対し、39 語 (46.4%) が B 型で実現した。また、後部要素が 2 モーラ 2 音節の場合には、82 語中 12 語 (14.6%) が A 型で実現したのに対し、70 語 (85.4%) が B 型で実現した。そして、後部要素が 2 モーラ 1 音

節の場合には、217 語中 30 語 (13.8%) が A 型で実現したのに対し、187 語 (86.2%) が B 型で実現した。このように、後部要素が 2 モーラの場合には予測どおりの結果になっているが、後部要素が 1 モーラの場合には A 型と B 型がほぼ半数ずつになっており、予測どおりになっているとは言いがたい。

しかし、各語の音韻構造を詳細に検討してみると、前部要素に促音を含むか否かでアクセント型の分布が異なっていることが分かる。2 モーラ+1 モーラの構造では、促音を含む語 (21 語) は全て B 型で実現したのに対して、促音を含まない語 (59 語) の場合には A 型になる語が 40 語 (67.8%) となっており、促音を含む場合には B 型になるということが言えそうである。そこで、促音を含む語を排除したところ、(14)における後部要素が 1 モーラ 1 音節の場合の分布は A 型が 45 例 (70.3%)、B 型が 19 例 (29.7%) と A 型が多数を占めた。このことから、促音による影響を排除すれば、後部要素のモーラ数が二字漢語のアクセント型に影響するという仮説 3 が妥当であると思われる。

以上の調査結果から、長崎方言の二字漢語のアクセント型に関する 3 つの仮説のうち、仮説 3 のみが妥当であるということが示された。しかし、全体的に例外も多く見られた。この原因としては、二字漢語には語彙化し、アクセント型の情報も個別に覚えられたものが多いということが考えられる。この問題を解決し、仮説 3 が規則として長崎方言に存在するのかを明らかにするためには、辞書に記載のない臨時的な二字漢語を用いた調査がさらに必要である。そこで、次節では臨時語の調査について報告を行う。

4. 調査 2 : 臨時語

4.1. 調査概要

3 節の最後で挙げた二字漢語のアクセント型に関する語彙的な例外の問題を排除するために、臨時語を用いた調査を行った。

まず、3 節で用いた漢語形態素のうち、王 (オウ)、加 (カ)、開 (カイ)、記 (キ)、共 (キョウ)、軍 (グン)、高 (コウ)、作 (サク)、参 (サン)、自 (ジ)、出 (シュツ)、市 (シ)、実 (ジツ)、職 (シヨク)、天 (テン)、馬 (バ)、別 (ベツ)、本 (ホン)、有 (ユウ) の 19 個について、これらを前部要素とする二字漢語 57 語を作成した⁵。ただし、

⁵ 調査語彙の全リストについては付録 2 を参照されたい。

作成した二字漢語は国語辞典（『広辞苑』第五版）に記載のないものという点で調査 1 のものと異なる。なお、調査では、話者には臨時語であることは伝えず、実在語の調査語彙のリストに含めた。

話者は調査 1 と同じである。そして、調査 1 と同じく 3 名のうち 2 名以上が発音した型をその二字漢語の型とした。

4.2. 結果と仮説の検証

以下では調査結果を示していく。ただし、調査 1 で見られた促音による影響を排するために、促音を含むデータ（7 例）を分析から除外した。

4.2.1. 仮説 1 について

まず前部要素の形態素別の結果を(15)に示す。

(15) 前部要素の形態素別の結果

前部要素 \ 結果	A 型	B 型	合計
A 型形態素	9 (30.0%)	21 (70.0%)	30
B 型形態素	8 (40.0%)	12 (60.0%)	20
合計	17	33	50

前部要素が A 型形態素の場合には、30 語中 9 語（30.0%）が A 型で実現したのに対し、21 語（70.0%）が B 型で実現した。また、前部要素が B 型形態素の場合には、20 語中 8 語（40.0%）が A 型で実現したのに対し、12 語（60.0%）が B 型で実現した。このように、前部要素が B 型形態素の場合には仮説どおりの結果になっているが、前部要素が A 型形態素の場合には仮説に反して B 型が多くなっている。以上のことから仮説 1 は妥当でないと考えられる。

4.2.2. 仮説 2 について

前部要素の音節構造別の結果を(16)に示す。

(16) 前部要素のモーラ数別の結果

前部要素 \ 結果	A 型	B 型	合計
1 モーラ 1 音節	4 (26.7%)	11 (73.3%)	15
2 モーラ 2 音節	2 (25.0%)	6 (75.0%)	8
2 モーラ 1 音節	11 (38.2%)	16 (61.8%)	27
合計	17	33	50

前部要素が 1 モーラ 1 音節の場合には、15 語中 4 語 (26.7%) が A 型で実現したのに対し、11 語 (73.3%) が B 型で実現した。また、前部要素が 2 モーラ 2 音節の場合には、8 語中 2 語 (25.0%) が A 型で実現したのに対し、6 語 (75.0%) が B 型で実現した。そして、前部要素が 2 モーラ 1 音節の場合には、27 語中 11 語 (38.2%) が A 型で実現したのに対し、16 語 (61.8%) が B 型で実現した。このように、前部要素が 2 モーラ 1 音節の場合には仮説どおりの結果になっているが、前部要素が 1 モーラ 1 音節、2 モーラ 2 音節の場合には仮説に反して B 型が多くなっている。以上のことから仮説 2 は妥当でないと考えられる。

4.2.3. 仮説 3 について

後部要素の音節構造別の集計結果を示す。

(17) 後部要素の音節構造別の結果

後部要素 \ 結果	A 型	B 型	合計
1 モーラ 1 音節	16 (88.9%)	2 (11.1%)	18
2 モーラ 2 音節	0 (0.0%)	15 (100.0%)	15
2 モーラ 1 音節	1 (5.9%)	16 (94.1%)	17
合計	17	33	50

臨時語では 3 例を除いて後部要素が 1 モーラならば A 型、2 モーラならば B 型に分布しており⁶、実在語で見られた傾向がより顕著になって現れた。

⁶ 例外となった 3 例は自和 (じわ) , 市乱 (しらん) , 作魅 (さくみ) である。平山(1960)に記載のある二字漢語のアクセント型を調べたところ、「和」を後部要素にする二字漢語の多くは東京方言において平板型となっており、また、「市」を前部要素に含む二字漢語は平板型と頭高、中高型が半数ずつ分布していた。このように、例外となった臨時語は構成する漢語形態素が影響を及ぼしてしまった

これは予測と合致するものであり、仮説3が妥当なものであることを示している。

5. 結論

本稿では、長崎方言の二字漢語のアクセント型がどのような要因によって決まるかという問題について、「仮説1：前部要素の形態素に指定されたアクセント型によって決まる」、「仮説2：前部要素のモーラ数によって決まる」、「仮説3：後部要素のモーラ数によって決まる」という3つの仮説を検討した。そして、実在語、臨時語を用いた聞き取り調査の結果、仮説3が妥当であることを示した。

では長崎方言の二字漢語はなぜ東京方言と同じ規則性が見られるのだろうか。一つの可能性として考えられるのは、漢語の語彙を獲得する際に、東京方言（共通語）の音声が入力となっているということである⁷。近年、マスメディアの発達により、方言の共通語化が進んできている。長崎方言話者が漢語の語彙を獲得する際に、入力となったのが東京方言（共通語）であったということは十分に考えられる。本稿の話者の言語形成期は必ずしもマスメディアの発達が十分であったとは言いがたいと思う人がいるかもしれない。しかし、言語形成期の後に漢語語彙を多く耳にし、その影響を受けることは否定できないだろう。また、鹿児島方言における類似の現象が窪菌(2006)でも報告されていることからこの可能性が有力だということは十分に考えられる。鹿児島方言では、アクセントの変化（共通語化）は若年層で顕著に見られるとしているが、長崎方言の場合、中・高年層においても共通語との規則的な対応関係が見られることから、事態はより進んでいるといえる。しかし、漢語と同じように構成要素が2モーラ以下から成る場合でも、和語の複合語では平山の法則どおり前部要素の型に基づいて語全体のアクセント型が決まる（松浦 2008）。このような語種による非対称性が何に基づくのかを明らかにすることが今後の課題である。

ためと考えられる。なお、「魅」を後部要素とする二字漢語の実例は平山(1960)には掲載されていなかった。

⁷ 隣接する方言の影響もあるのではないかという意見もあるかもしれない。長崎方言を中心とした二型アクセント地域に隣接するのは佐世保等に分布する一型アクセント地域である。もし、影響するならば、漢語において長さに関わらず型の区別がなくなることが予測されるが、これまで見たとおり、型の区別ははっきりとしていた。そのため、隣接する方言の影響はないものとする。

また、本稿では二字漢語のアクセント型に影響する要因として、前部要素のアクセント型、前部要素の音節構造、後部要素のモーラ数という3つの可能性について検討した。しかし、後部要素のモーラ数以外にも促音による影響が観察されたように、分節音による影響も考えられるので、今後検討する必要があるだろう。

謝辞

調査にご協力いただきました高木博，高木ふさ子，浦川薫，田中重光，田中節子，河野泰子の各氏に感謝いたします。本論文は第134回日本言語学会（2007年6月16日，於：麗澤大学）の口頭発表「長崎方言における二字漢語のアクセント型について」に加筆，修正したものです。発表において質問，コメントをいただいた方々に感謝申し上げます。また，久保智之，増田正彦，水本豪，村岡諭，佐藤久美子，田中大輝，張楚栄，安永大地の各氏，及び2名の匿名査読者には有益なコメントをいただきました。記して感謝申し上げます。当然のことながら，本論文における議論の不備や，誤りは私の責任によるものです。

参考文献

- 秋永一枝 (1981)『明解日本語アクセント辞典』(第2版)，東京：三省堂。
早田輝洋 (1977)「生成アクセント論」『音韻』岩波講座 日本語 第5巻：323-360. 東京：岩波書店。
平山輝男 (1951)『九州方言音調の研究』東京：学界之指針社。
平山輝男 (1960)『全国アクセント辞典』東京：東京堂出版。
木部暢子 (1990)「鹿児島市方言のアクセント法則」徳川宗賢（編）『方言音調の諸相－西日本(1)－』（科研費報告書: No. 01642007）：127-139。
金田一春彦 (1974)『国語アクセントの史的研究 原理と方法』東京：塙書房。
窪菌晴夫 (2006)『アクセントの法則』岩波書店。
窪菌晴夫 (2007)「レキシコンとアクセント指定－鹿児島方言の外来語アクセント－」影山太郎（編）『レキシコンフォーラム』3：1-32。
松浦年男 (2008)「長崎方言における例外的複合語アクセントの生起条件」『音韻研究』11：11-18。
最上勝也，坂本 充，塩田雄大，大西勝也 (1999)「『日本語発音アクセント辞典』～改訂の系譜と音韻構造の考察～」『NHK 放送文化調査研究年報』44：97-157。

- Ogawa, Shinji (2004) Sino-Japanese word accent and syllable structure. *Phonological studies* 7 : 41-48.
- 小川晋史 (2005) 「鹿児島方言における漢語の音調」 日本音韻論学会第 12 回研究発表会配布資料.
- 小川晋史 (2006) 「京都方言の 2 字漢語アクセント」 『音韻研究』 9 : 91-98.
- 坂口 至 (1990) 「漢語アクセントの方言化ー長崎式二型アクセント話者の場合ー」 『筑紫語学研究』 1 : 9-16.
- 坂口 至 (2001) 「長崎方言のアクセント」 『音声研究』 5(3) : 33-41.
- 上野善道 (1984) 「N 型アクセントの一般特性」 平山輝男博士古希記念会(編) 『現代方言学の課題 第 2 巻』 : 167-209. 東京 : 明治書院.
- 上野善道 (1992) 「鹿児島県吹上町方言の複合名詞のアクセント」 国広哲弥 (編) 『日本語イントネーションの実態と分析』 (科研費報告書: No. 03208112) : 91-208.

付録1 実在語の調査語彙と結果⁸

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
愛国	アイ#コク	0	b	b	b	b
愛好	アイ#コウ	0	b	b	b	b
愛妻	アイ#サイ	0	b	b	b	b
愛人	アイ#ジン	0	b	b	b	b
愛想	アイ#ソ	0	b	b	b	b
愛憎	アイ#ゾウ	0	b	b	b	b
愛知	アイ#チ	1	a	a	a	a
愛嬌	アイ#キョウ	3	b	b	b	b
愛犬	アイ#ケン	0	b	b	b	b
運休	ウン#キュウ	0	b	b	b	b
運賃	ウン#チン	1	a	a	a	a
運転	ウン#テン	0	b	b	b	b
運動	ウン#ドウ	0	b	b	b	b
運河	ウン#ガ	1	a	a	a	a
運送	ウン#ソウ	0	b	b	b	b
運行	ウン#コウ	0	b	b	b	b
運勢	ウン#セイ	1	a	a	a	a
運輸	ウン#ユ	1	a	a	a	a
運用	ウン#ヨウ	0	b	b	b	b
加害	カ#ガイ	0	b	b	b	a
加減	カ#ゲン	0	b	b	b	b
加工	カ#コウ	0	b	b	b	b
加算	カ#サン	0	b	b	b	b
加勢	カ#セイ	0	b	b	b	b
加担	カ#タン	0	b	b	b	b
加盟	カ#メイ	0	b	b	b	b
加熱	カ#ネツ	0	b	b	b	b

⁸ 東京方言は語頭から数えたアクセントの位置を数字で示した。なお、0は平板型であることを示す。長崎方言は「代表」が本稿における型で、他は個別の話者の結果を表している。aとbはA型、B型をそれぞれ表す。

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
加筆	カ#ヒツ	0	b	b	b	b
加法	カ#ホウ	1	b	b	b	b
開口	カイ#コウ	0	b	b	b	b
開催	カイ#サイ	0	b	b	b	b
開始	カイ#シ	0	b	b	b	b
開店	カイ#テン	0	b	b	b	b
開発	カイ#ハツ	0	b	b	b	b
開放	カイ#ホウ	0	b	b	b	b
開花	カイ#カ	0	b	b	a	b
開示	カイ#ジ	0	b	b	b	b
開会	カイ#カイ	0	b	b	b	b
開館	カイ#カン	0	b	b	b	b
開業	カイ#ギョウ	0	b	b	b	b
開通	カイ#ツウ	0	b	b	b	b
開閉	カイ#ヘイ	0	b	b	b	b
開幕	カイ#マク	0	b	b	b	b
開拓	カイ#タク	0	b	b	b	b
共感	キョウ#カン	0	b	b	b	b
共済	キョウ#サイ	0	b	b	b	b
共催	キョウ#サイ	0	b	b	b	b
共存	キョウ#ゾン	0	b	b	b	b
共犯	キョウ#ハン	0	b	b	b	b
共謀	キョウ#ボウ	0	b	b	b	b
共鳴	キョウ#メイ	0	b	b	b	b
共有	キョウ#ユウ	0	b	b	b	b
共用	キョウ#ヨウ	0	b	b	b	b
共学	キョウ#ガク	0	b	b	b	b
高位	コウ#イ	1	a	a	a	a
高価	コウ#カ	1	a	a	a	a
高貴	コウ#キ	1	a	a	a	a
高所	コウ#シヨ	1	a	a	a	a
高度	コウ#ド	1	a	a	a	a

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
高温	コウ#オン	0	b	b	b	b
高官	コウ#カン	0	b	b	b	b
高級	コウ#キュウ	0	b	b	b	b
高原	コウ#ゲン	0	b	b	b	a
高校	コウ#コウ	0	b	a	b	b
高尚	コウ#ショウ	0	b	b	b	b
高層	コウ#ソウ	0	b	b	b	b
高低	コウ#テイ	1	b	b	b	b
高等	コウ#トウ	0	b	b	b	b
高騰	コウ#トウ	0	b	b	b	b
高齢	コウ#レイ	0	b	b	b	b
高圧	コウ#アツ	0	b	b	b	b
高額	コウ#ガク	0	b	b	b	b
高潔	コウ#ケツ	0	b	b	b	b
高速	コウ#ソク	0	b	b	b	b
高熱	コウ#ネツ	0	b	b	b	b
作家	サツ#カ	0	b	b	b	b
作為	サク#イ	1	a	a	a	a
作詞	サク#シ	0	b	b	b	b
作者	サク#シャ	1	a	a	a	b
作図	サク#ズ	0	b	b	b	b
作曲	サツ#キョク	0	b	b	b	b
作成	サク#セイ	0	b	b	b	b
作戦	サク#セン	0	b	b	b	b
作品	サク#ヒン	0	b	b	b	b
作風	サク#フウ	0	b	b	b	b
作文	サク#ブン	0	b	b	b	b
参加	サン#カ	0	b	b	b	b
参賀	サン#ガ	1	a	a	a	a
参議	サン#ギ	1	b	b	b	a
参与	サン#ヨ	1	a	a	a	a
参会	サン#カイ	0	b	b	b	b

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
参観	サン#カン	0	b	b	b	b
参考	サン#コウ	0	b	b	b	b
参照	サン#ショウ	0	b	b	b	b
参上	サン#ジョウ	0	b	b	b	b
参戦	サン#セン	0	b	b	b	b
参堂	サン#ドウ	0	b	b	b	b
参入	サン#ニュウ	0	b	b	b	b
参拝	サン#パイ	0	b	b	b	b
参謀	サン#ボウ	0	b	b	b	b
参画	サン#カク	0	b	b	b	b
参列	サン#レツ	0	b	b	b	b
自愛	ジ#アイ	0	b	b	b	b
自衛	ジ#エイ	0	b	b	b	b
自害	ジ#ガイ	1	b	b	b	a
自習	ジ#シュウ	0	b	b	b	b
自称	ジ#ショウ	0	b	b	b	b
自信	ジ#シン	0	a	a	a	a
自制	ジ#セイ	0	b	b	b	b
自転	ジ#テン	0	b	b	b	b
自認	ジ#ニン	0	b	b	b	b
自分	ジ#ブン	0	b	b	b	b
自慢	ジ#マン	0	a	a	a	b
自由	ジ#ユウ	2	b	b	b	b
自覚	ジ#カク	0	b	b	b	b
自決	ジ#ケツ	0	b	b	b	b
自作	ジ#サク	0	b	b	b	b
自失	ジ#シツ	0	b	b	b	b
自炊	ジ#スイ	0	b	b	b	b
自責	ジ#セキ	0	b	b	a	b
自説	ジ#セツ	0	b	b	b	b
自宅	ジ#タク	0	b	b	b	b
自足	ジ#ソク	0	b	b	a	b

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
自発	ジ#ハツ	0	b	b	b	b
自滅	ジ#メツ	0	b	b	b	b
自筆	ジ#ヒツ	0	b	b	b	b
自力	ジ#リキ	0	b	b	b	b
自律	ジ#リツ	0	b	b	b	b
自己	ジ#コ	1	a	a	a	a
自負	ジ#フ	1	a	a	a	a
出火	シュツ#カ	0	b	b	b	b
出荷	シュツ#カ	0	b	b	b	b
出家	シュツ#ケ	0	b	b	b	b
出資	シュツ#シ	1	b	b	b	b
出世	シュツ#セ	0	b	b	b	b
出所	シュツ#シヨ	0	b	b	b	b
出費	シュツ#ピ	0	b	b	b	b
出土	シュツ#ド	0	b	b	b	a
出馬	シュツ#バ	0	b	b	b	b
出勤	シュツ#キン	0	b	b	b	b
出港	シュツ#コウ	0	b	b	b	b
出生	シュツ#セイ	0	b	b	b	b
出身	シュツ#シン	0	b	b	b	b
出征	シュツ#セイ	0	b	b	b	b
出廷	シュツ#テイ	0	b	b	b	b
出頭	シュツ#トウ	0	b	b	b	b
出品	シュツ#ピン	0	b	b	b	b
出版	シュツ#パン	0	b	b	b	b
出欠	シュツ#ケツ	0	b	b	b	b
出血	シュツ#ケツ	0	b	b	b	b
出席	シュツ#セキ	0	b	b	b	b
出発	シュツ#パツ	0	b	b	b	b
出願	シュツ#ガン	0	b	b	b	b
出現	シュツ#ゲン	0	b	b	b	b
出場	シュツ#ジョウ	0	b	b	b	b

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
出動	シュツ#ドウ	0	b	b	b	b
出撃	シュツ#ゲキ	0	b	b	b	b
出獄	シュツ#ゴク	0	b	b	b	b
出沒	シュツ#ボツ	0	b	b	b	b
出墨	シュツ#ルイ	0	b	b	b	b
石器	セツ#キ	0	b	a	b	b
石碑	セキ#ヒ	0	a	a	b	a
石油	セキ#ユ	0	b	a	b	b
石材	セキ#ザイ	2	a	a	a	a
石像	セキ#ゾウ	0	a	a	a	a
石炭	セキ#タン	3	b	b	b	b
石版	セキ#バン	0	a	a	a	a
石盤	セキ#バン	0	b	a	b	b
石墨	セキ#ボク	0	b	b	b	b
石灰	セツ#カイ	1	a	a	b	a
石鹼	セツ#ケン	0	b	b	b	b
石膏	セツ#コウ	0	b	b	b	b
絶海	ゼツ#カイ	0	a	a	b	a
絶景	ゼツ#ケイ	0	b	b	b	b
絶好	ゼツ#コウ	0	b	b	b	b
絶交	ゼツ#コウ	0	b	b	b	b
絶賛	ゼツ#サン	0	b	b	b	b
絶頂	ゼツ#チョウ	0	b	b	b	b
絶版	ゼツ#パン	0	b	b	b	b
絶筆	ゼツ#ピツ	0	b	b	b	b
絶壁	ゼツ#ペキ	0	b	b	b	b
絶縁	ゼツ#エン	0	b	b	b	b
絶無	ゼツ#ム	1	b	b	b	b
絶大	ゼツ#ダイ	0	b	b	b	b
絶望	ゼツ#ボウ	0	b	b	b	b
絶命	ゼツ#メイ	0	b	b	b	b
絶滅	ゼツ#メツ	0	b	b	b	b

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
大火	タイ#カ	1	a	a	a	a
大河	タイ#ガ	1	a	a	a	a
大気	タイ#キ	1	a	a	a	a
大差	タイ#サ	1	a	a	a	a
大破	タイ#ハ	1	a	a	a	a
大会	タイ#カイ	0	b	b	b	b
大金	タイ#キン	0	b	b	b	a
大群	タイ#グン	0	b	b	b	a
大衆	タイ#シュウ	0	b	b	b	b
大正	タイ#ショウ	0	b	b	b	b
大戦	タイ#セン	0	b	b	b	b
大敗	タイ#ハイ	0	b	b	b	b
大半	タイ#ハン	0	b	b	b	b
大変	タイ#ヘン	0	a	a	b	a
大砲	タイ#ホウ	0	a	a	a	a
大洋	タイ#ヨウ	1	a	a	b	a
大量	タイ#リョウ	0	b	b	b	b
大食	タイ#シヨク	0	b	b	b	b
大切	タイ#セツ	0	a	a	a	a
大敵	タイ#テキ	0	b	b	b	b
大役	タイ#ヤク	0	b	b	b	a
大陸	タイ#リク	0	b	b	b	a
中古	チュウ#コ	0	b	b	b	a
中止	チュウ#シ	0	b	b	b	b
中座	チュウ#ザ	0	b	b	b	b
中部	チュウ#ブ	1	a	a	a	a
中和	チュウ#ワ	0	b	b	b	b
中央	チュウ#オウ	3	b	b	b	b
中間	チュウ#カン	0	b	b	b	b
中級	チュウ#キュウ	0	b	b	b	b
中継	チュウ#ケイ	0	b	b	b	b
中元	チュウ#ゲン	0	b	b	b	b

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
中秋	チュウ#シュウ	0	b	b	b	b
中傷	チュウ#ショウ	0	b	b	b	b
中小	チュウ#ショウ	1	a	b	a	a
中心	チュウ#シン	0	b	b	b	b
中世	チュウ#セイ	1	a	a	a	a
中性	チュウ#セイ	0	a	a	b	a
中東	チュウ#トウ	0	b	b	b	b
中等	チュウ#トウ	0	b	b	b	b
中年	チュウ#ネン	0	b	b	b	a
中盤	チュウ#バン	0	b	b	b	b
中流	チュウ#リュウ	0	b	b	b	b
中核	チュウ#カク	0	b	b	b	b
中学	チュウ#ガク	1	a	a	a	a
中国	チュウ#ゴク	1	a	a	a	a
中軸	チュウ#ジク	0	b	b	b	b
中毒	チュウ#ドク	1	a	a	a	a
中立	チュウ#リツ	0	b	b	b	b
中腹	チュウ#フク	0	b	b	b	b
中略	チュウ#リヤク	0	b	b	b	b
日課	ニツ#カ	0	b	b	b	b
日記	ニツ#キ	0	b	b	b	b
日誌	ニツ#シ	0	b	b	b	b
日時	ニチ#ジ	1	a	a	a	b
日夜	ニチ#ヤ	1	a	a	a	a
日刊	ニツ#カン	0	b	b	b	b
日給	ニツ#キュウ	0	b	a	b	b
日勤	ニツ#キン	0	b	b	b	b
日光	ニツ#コウ	1	a	a	a	a
日産	ニツ#サン	0	b	b	b	b
日収	ニツ#シュウ	0	b	b	b	b
日数	ニツ#スウ	3	b	b	b	b
日中	ニツ#チュウ	1	a	a	a	a

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
日程	ニツ#テイ	0	b	b	b	b
日当	ニツ#トウ	0	b	b	b	b
日本	ニツ#ボン	3	b	b	b	b
日食	ニツ#シヨク	0	b	b	b	b
日赤	ニツ#セキ	0	b	b	b	b
日直	ニツ#チヨク	0	b	b	b	b
日銀	ニチ#ギン	0	a	a	b	a
日常	ニチ#ジョウ	0	b	b	b	b
日米	ニチ#ベイ	1	a	a	a	a
日曜	ニチ#ヨウ	3	b	b	b	b
日輪	ニチ#リン	0	a	a	b	a
日独	ニチ#ドク	1	a	a	a	b
日仏	ニチ#フツ	1	a	a	a	a
日僕	ニチ#ボク	0	b	b	b	b
発火	ハッ#カ	0	b	b	b	b
発揮	ハッ#キ	0	b	b	a	b
発射	ハッ#シャ	0	b	b	b	b
発破	ハッ#パ	0	b	b	b	b
発芽	ハツ#ガ	0	b	b	b	b
発露	ハツ#ロ	1	a	a	a	a
発刊	ハッ#カン	0	b	b	b	b
発見	ハッ#ケン	0	b	b	b	b
発行	ハッ#コウ	0	b	b	b	b
発光	ハッ#コウ	0	b	b	b	b
発酵	ハッ#コウ	0	b	b	b	b
発散	ハッ#サン	0	b	b	b	b
発信	ハッ#シン	0	b	b	b	b
発声	ハッ#セイ	0	b	b	b	b
発生	ハッ#セイ	0	b	b	b	b
発送	ハッ#ソウ	0	b	b	b	b
発想	ハッ#ソウ	0	b	b	b	b
発注	ハッ#チュウ	0	b	b	b	b

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
発展	ハツ#テン	0	b	b	b	b
発表	ハツ#ピョウ	0	b	b	b	b
発奮	ハツ#ブン	0	b	b	b	b
発砲	ハツ#ポウ	0	b	b	b	b
発覚	ハツ#カク	0	b	b	b	b
発掘	ハツ#クツ	0	b	b	b	b
発達	ハツ#タツ	0	b	b	b	b
発案	ハツ#アン	0	b	b	b	b
発音	ハツ#オン	0	b	b	b	b
発言	ハツ#ゲン	0	b	b	b	b
発売	ハツ#バイ	0	b	b	b	b
発動	ハツ#ドウ	0	b	b	b	b
発病	ハツ#ビョウ	0	b	b	b	b
発明	ハツ#メイ	0	b	b	b	b
発令	ハツ#レイ	0	b	b	b	b
発育	ハツ#イク	0	b	b	b	b
発熱	ハツ#ネツ	0	b	b	b	b
王位	オウ#イ	1	a	a	a	a
王冠	オウ#カン	0	b	b	b	b
王宮	オウ#キュウ	0	b	b	b	b
王国	オウ#コク	0	a	a	a	b
王座	オウ#ザ	1	a	a	a	a
王子	オウ#ジ	1	a	a	a	a
王室	オウ#シツ	0	b	b	b	b
王族	オウ#ゾク	0	b	b	a	b
王道	オウ#ドウ	0	b	b	b	b
王妃	オウ#ヒ	1	a	a	a	a
記憶	キ#オク	0	b	b	b	b
記号	キ#ゴウ	0	b	b	b	b
記載	キ#サイ	0	b	b	b	b
記者	キ#シャ	1	a	a	a	a
記述	キ#ジュツ	0	b	b	b	b

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
記帳	キ#チョウ	0	b	b	b	b
記入	キ#ニュウ	0	b	b	b	b
記念	キ#ネン	0	b	b	b	b
軍医	グン#イ	1	a	a	a	a
軍歌	グン#カ	1	a	a	a	a
軍艦	グン#カン	0	b	b	b	b
軍人	グン#ジン	0	b	b	b	b
軍隊	グン#タイ	1	a	a	a	a
軍閥	グン#バツ	0	b	b	b	a
軍務	グン#ム	1	a	a	a	a
軍律	グン#リツ	0	b	b	b	b
軍令	グン#レイ	0	b	b	b	b
市営	シ#エイ	0	b	b	b	b
市価	シ#カ	1	a	a	a	a
市外	シ#ガイ	1	a	a	a	a
市場	シ#ジョウ	0	b	b	b	b
市長	シ#チョウ	1	a	a	a	a
市内	シ#ナイ	1	a	a	a	a
市民	シ#ミン	1	a	a	a	a
市立	シ#リツ	1	b	b	b	b
実印	ジツ#イン	0	b	b	b	a
実家	ジツ#カ	0	b	b	b	b
実感	ジツ#カン	0	b	b	b	b
実況	ジツ#キョウ	0	b	b	b	b
実施	ジツ#シ	0	b	b	b	b
実地	ジツ#チ	0	b	b	b	b
実母	ジツ#ボ	1	a	a	a	b
実名	ジツ#メイ	0	b	b	b	b
実利	ジツ#リ	1	a	b	a	a
職員	シヨク#イン	2	a	a	a	a
職業	シヨク#ギョウ	2	a	a	a	a
職種	シヨク#シュ	0	b	b	b	a

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
職務	シヨク#ム	1	a	a	a	a
職歴	シヨク#レキ	0	b	b	b	a
職権	シヨツ#ケン	0	b	b	b	b
職工	シヨツ#コウ	0	b	b	b	b
天下	テン#カ	1	a	a	a	a
天気	テン#キ	1	a	a	a	a
天災	テン#サイ	0	b	b	b	b
天職	テン#シヨク	1	a	a	a	a
天体	テン#タイ	0	b	b	b	b
天女	テン#ニョ	1	a	a	a	a
馬脚	バ#キヤク	0	b	b	b	b
馬車	バ#シヤ	1	a	a	a	a
馬術	バ#ジュツ	1	a	a	a	a
馬上	バ#ジョウ	0	b	b	b	b
馬力	バ#リキ	0	a	a	a	a
別館	ベツ#カン	0	b	b	b	b
別記	ベツ#キ	0	b	b	b	b
別居	ベツ#キョ	0	b	b	b	b
別人	ベツ#ジン	0	b	b	b	b
別席	ベツ#セキ	0	b	b	b	b
別便	ベツ#ビン	0	b	b	b	b
本意	ホン#イ	1	a	a	a	a
本校	ホン#コウ	1	a	a	a	a
本国	ホン#ゴク	1	a	b	a	a
本社	ホン#シヤ	1	a	a	a	a
本籍	ホン#セキ	1	a	a	a	a
本体	ホン#タイ	1	a	a	a	a
本部	ホン#ブ	1	a	a	a	a
本文	ホン#ブン	1	a	a	a	a
有益	ユウ#エキ	0	b	b	b	b
有期	ユウ#キ	1	a	a	a	a
有給	ユウ#キュウ	0	b	b	b	b

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
有限	ユウ#ゲン	0	b	a	b	b
有毒	ユウ#ドク	0	b	a	b	b
有利	ユウ#リ	1	a	a	a	a
有力	ユウ#リョク	0	b	b	b	b

付録2 臨時語の調査語彙と結果

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
開可	カイ#カ	0	a	a	b	a
開草	カイ#ソウ	0	b	b	b	b
開達	カイ#タツ	0	b	b	b	b
加殺	カ#サツ	0	b	b	b	b
加自	カ#ジ	1	a	a	a	a
加道	カ#ドウ	0	b	a	b	b
共確	キョウ#カク	0	b	b	b	b
共子	キョウ#シ	1	a	a	a	a
共件	キョウ#ダン	0	b	b	b	b
高指	コウ#シ	1	a	a	a	a
高贈	コウ#ゾウ	0	b	b	b	b
高突	コウ#トツ	0	b	b	b	b
作伐	サク#バツ	0	b	b	b	b
作偏	サク#ヘン	0	b	b	b	b
作魅	サク#ミ	0	b	b	b	b
作過	サッ#カ	0	b	b	b	b
参指	サン#シ	1	a	a	a	b
参草	サン#ソウ	0	b	b	b	b
参没	サン#ボツ	0	b	b	b	b
自接	ジ#セツ	0	b	b	b	a
自飽	ジ#ホウ	0	b	b	b	b
自和	ジ#ワ	1	b	b	b	a
出拓	シュツ#タク	0	b	b	b	b
出破	シュツ#パ	0	b	b	b	b
出美	シュツ#ビ	1	a	a	b	a
出建	シュツ#ケン	0	b	b	b	b
王美	オウ#ビ	1	a	a	a	a
王目	オウ#モク	0	b	b	b	b
王派	オウ#ハ	1	a	a	a	a
記具	キ#グ	1	a	a	a	a
記別	キ#ベツ	0	b	b	b	a

漢字	読み	東京	代表	話者1	話者2	話者3
記労	キ#ロウ	0	b	b	b	b
軍度	グン#ド	1	a	a	a	a
軍差	グン#サ	1	a	a	a	a
軍録	グン#ロク	0	b	b	b	b
市物	シ#ブツ	0	b	b	b	b
市労	シ#ロウ	0	b	b	b	a
市乱	シ#ラン	0	a	b	a	a
実電	ジツ#デン	0	b	b	b	b
実場	ジツ#バ	0	b	b	a	b
実庫	ジツ#コ	1	a	b	a	a
職婦	シヨク#フ	1	a	a	a	a
職密	シヨク#ミツ	0	b	b	b	b
職船	シヨク#セン	0	b	b	b	b
天部	テン#ブ	1	a	a	a	a
天送	テン#ソウ	0	b	b	b	b
天壁	テン#ペキ	0	b	b	b	b
馬達	バ#タツ	0	b	b	b	b
馬酒	バ#シュ	1	a	b	a	a
馬才	バ#サイ	0	b	b	b	b
別設	ベツ#セツ	0	b	b	b	b
別素	ベツ#ソ	1	a	a	b	a
本庫	ホン#コ	1	a	a	b	a
本雑	ホン#ザツ	0	b	b	b	b
本老	ホン#ロウ	0	b	b	b	b
有馬	ユウ#バ	1	a	a	a	a
有牛	ユウ#ギユウ	0	b	b	b	b
有港	ユウ#コウ	0	b	b	b	b

Accentual patterns of Sino-Japanese compounds in Nagasaki Japanese

MATSUURA, Toshio
(Hokusei Gakuen University)

This paper describes the accentual patterns of Sino-Japanese compounds in Nagasaki Japanese. By investigating the accentual patterns of *actual* and *nonce* Sino-Japanese compounds, I demonstrated that the accentual pattern of a Sino-Japanese compound is determined by the mora length of the second element of the compound. If the second element of a Sino-Japanese compound consists of one mora, the compound is produced with a falling pattern (Type A), otherwise it is produced with a flat pattern (Tone B). Since the same generalization holds also in Standard Tokyo Japanese, the result strongly implies that the accentual patterns of Nagasaki Japanese are influenced by the accentual patterns of Standard Tokyo Japanese.

(初稿受理日 2009年3月9日 最終稿受理日 2009年6月24日)